

詩作や映像制作などメディアを横断するアーティスト 青柳菜摘が
十和田市のまちなかで映像インスタレーションを展示

十和田市現代美術館 サテライト会場「space」 展覧会

青柳菜摘 亡船記

2022 年 9 月 17 日 (土) - 12 月 18 日 (日)



十和田市現代美術館ではサテライト会場「space」でアーティスト 青柳菜摘の個展を 2022 年 9 月 17 日(土)から 12 月 18 日(日)まで開催します。

青柳菜摘は、自身を取り巻く環境と向き合いながら、見えない存在を捉えるために、映像や文章を用いて表現してきました。近年では、クラウドソーシングで他者の物語やイメージを収集するなど、現代における個人の在り方と、その観察方法を模索しています。

青柳にとって 6 年ぶりの個展となる本展では、航海によって発展した中国発祥の媽祖(まそ)信仰をきっかけに構想した、航海日誌をテーマにした作品を発表します。船は、今では身近な移動手段ではなくなりましたが、かつては遠方へ赴く唯一の手段であり、未踏の地への命を懸けた冒険でもありました。航海記から SF に登場する宇宙船まで、数々の文学の主題ともなっています。本展は、人々の船での移動によりその信仰が東アジア広域に広がった航海の女神 媽祖のほか、大航海時代に長い航海での水分補給と健康維持のために発展したと言われるカクテルなど、船をめぐる古今東西の要素を織り交ぜた映像インスタレーションを、space を始め、美術館内カフェや十和田市内の花屋、温泉、バー、スナックの 6 つの拠点で、一冊の絵本を編むように展開します。かつて海を渡った無数の人々の希望や苦難、ともに各地で根付いた生き物や酒、信仰。青柳が描く船なき航海日誌は、先行きの見えない時代を生きる私たちを、現在の世界に今もずっと生き続ける彼/彼女らと出会う旅へと誘うでしょう。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【 本展の見どころ 】

1. 若手アーティストの新たな表現の展開を見る

青柳はこれまでに、東京の中で見つけることのできない虫を探すことを通して自身と自然との関係性を見出そうとする《孵化日記》や、19 世紀ドイツでカレンダーにつけられた市民のための物語を、現代に捉え直した《家の友のための暦物語》など、日記、暦といった日々の記録に着目しながら、時間芸術としての映像表現に取り組んできました。本展では、新たに航海日誌をテーマに据え、新作の映像インスタレーションを発表します。

2. まちを歩いて物語を体感する

複数の物語を軸に構成される本展は、space のほか、美術館内カフェ、十和田市内の花屋、温泉、バー、スナックでも展示を行います。場所に合わせて展示される作品を巡ることで、温泉での入浴、スナックでの人との出会い、バーでは作品からマスターが考案したカクテルを飲むなど、固有の鑑賞体験が生まれます。開場時間もそれぞれに異なるため夜しか見ることのできない作品もあり、時間をかけて各会場を歩いて回することで、作品のテーマでもある「移動」や時間の流れを体感しながら、物語を一つずつ集めるようにご鑑賞ください。

【 アーティスト 】

青柳 菜摘 (あおやぎ・なつみ)



撮影：和田信太郎

1990年東京都生まれ。ある虫や身近な人、植物、景観に至るまであらゆるものの成長過程を観察する上で、記録メディアや固有の媒体に捉われずにいかに表現することが可能か、リサーチやフィールドワークを重ねながら、作者である自身の見ているものがそのまま表れているように経験させる手段と、観客がその不可能性に気づくことを主題として取り組んでいる。

2016年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。近年の活動に《TWO PRIVATE ROOMS-往復朗読》(オンライン・プロジェクト、2020-)、「『新しい成長』の提起：ポストコロナ社会を創造するアーツプロジェクト」(東京藝術大学大学美術館、2021)、第10回恵比寿映像祭(東京都写真美術館、2018)など。また書籍に小説「フジミ楼蜂」(『ことばと』vol. 3、書肆侃侃房、2021)、詩集『家で待つ君のための暦物語』(2021)がある。プラクティショナー・コレクティブであるコ本や honkbooks 主宰。「だつお」というアーティスト名でも活動。datsuo.com

【 パブリック・プログラム 】

アーティスト・トーク ※要予約

日にち：2022 年 9 月 17 日 (土) | 時間：14：00 - 15：00 | 会場：十和田市現代美術館 カフェ
料金：無料 | 登壇：青柳菜摘

※上記の他にも、会期中にパブリック・プログラムを予定しています。詳細は後日発表します。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、日程や実施内容が変更となる場合があります。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷 (おおたに)

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【開催概要】

展覧会名：「青柳菜摘 亡船記」

会 期：2022 年 9 月 17 日（土） - 12 月 18 日（日）

観 覧 料：無料 ※ 愛莉の部屋、Cocktail bar RED DOOR ではドリンクのご注文が必要です。
※ みちのく温泉はロビーに作品を展示するため、入浴料は不要です。

主 催：十和田市現代美術館

協 力：愛莉の部屋、Cocktail bar RED DOOR、コ本や honkbooks、田島生花店、
東京藝術大学大学院映像研究科 RAM Association、みちのく温泉

後 援：青森朝日放送、青森テレビ、青森放送、デーリー東北新聞社、東奥日報社、十和田市教育委員会
キュレーター：外山有菜

【会場】

space

住所：青森県十和田市西三番町 18-20 / 開場時間：火 - 日 10:00 - 17:00

十和田市現代美術館 カフェ

住所：十和田市西二番町 10-9 / 開場時間：火 - 日 9:00 - 17:00

あいう
愛莉の部屋（スナック）

住所：十和田市東二番町 2-48 / 開場時間：月 - 日 20:00 - 24:00

Cocktail bar RED DOOR（バー）

住所：十和田市東三番町 1-47 / 開場時間：火 - 土 19:05 - 26:00

田島生花店

住所：十和田市稲生町 18-5 / 開場時間：月 - 土 9:00 - 18:30、日・祝 9:00 - 16:30（定休日：第一日曜）

みちのく温泉

住所：十和田市東三番町 21-5 / 開場時間：月 - 日 6:00 - 22:00

※ いずれも通常営業中の店舗です。事情により予定外にお休みされる場合もございますのでご了承ください。

また、店舗へのお電話での営業時間や作品についてのお問い合わせは、営業の妨げとなりますのでご遠慮いただきますようお願いいたします。

space

十和田市現代美術館では、美術館から徒歩約 7 分のまちなかにある「space」を展示室として運営しています。アーティスト目[mé]による《space》は、一軒の空き家を大胆に展示室へと改装した作品で、2022 年 5 月まで企画展 Arts Towada 十周年記念「インター + プレイ」展の出品作品の一つとして展示していました。今後は、展示室そのものが作品という特殊な空間である《space》で、若手アーティストによる実験的な表現を紹介していき、これまでにない新たな視点や可能性を見出す場として展開します。

所在地：青森県十和田市西三番町 18-20



目 [mé] 《space》撮影：小山田邦哉

十和田市現代美術館

2008 年に東北初の現代美術館として開館。草間彌生、奈良美智、塩田千春、ロン・ミュエクなど世界の第一線で活躍するアーティストらの作品を常設展示しています。美術館の中だけでなく、周辺には公園のようなアート広場があり、子どもから大人まで散策しながら魅力あるアートとのふれあいを楽しむことができます。

所在地：青森県十和田市西二番町 10-9

TEL：0176-20-1127 FAX：0176-20-1138 web：www.towadaartcenter.com



お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【 広報用図版 】

ご希望画像の作品番号にチェックを入れ、申込みフォームの項目をご記入の上、本用紙を FAX または E-mail にてお送りください。

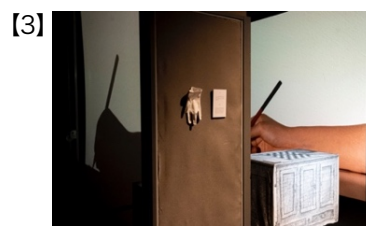
FAX : 0176-20-1138 / E-mail : press@towadaartcenter.com

TEL : 0176-20-1127 / 住所 : 034-0082 青森県十和田市西二番町 10-9

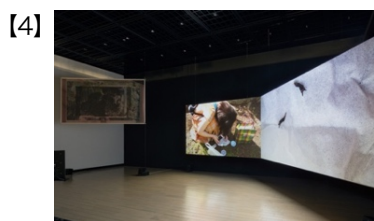
十和田市現代美術館 広報 大谷 行



《家で待つ君のための屠物語》2021 年
ビデオ・インスタレーション



《彼女の権利——フランケンシュタインによるトルコ人、あるいは現代のプロメテウス》2019 年
ビデオ・インスタレーション
撮影：和田信太郎



《孵化日記 2014-2015》2016/2018 年
ビデオ・インスタレーション
第 10 回恵比寿映像祭「インヴィジブル」
提供：東京都写真美術館
撮影：大島健一郎



撮影：和田信太郎



目 [mé] 《space》
撮影：小山田邦哉



十和田市現代美術館

媒体名

媒体ジャンル 新聞／雑誌／美術誌／テレビ／WEB／その他 ()

御社名

御担当者名

所在地 〒

電話

メールアドレス

【 画像ご使用に際して 】

- クレジットは全て明記してください。
- トリミングはご遠慮ください。
- キャプション等の文字が画像に被らないよう、レイアウトにご配慮ください。
- ご掲載の際は恐れ入りますが校正の段階で美術館までご確認ください。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com